



2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年2月12日

上場会社名 ブティックス株式会社 上場取引所 東
コード番号 9272 URL https://btix.jp
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 新村 祐三
問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長代行 (氏名) 上原 宏樹 (TEL) 03(6303)9431
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無 : 有
決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 四半期純利益 | |
|---------------|-------|---|------|---|------|---|--------|---|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 2026年3月期第3四半期 | 3,556 | — | 750 | — | 751 | — | 327 | — |
| 2025年3月期第3四半期 | — | — | — | — | — | — | — | — |

| | 1株当たり 四半期純利益 | 潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益 |
|---------------|-----------------|----------------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 2026年3月期第3四半期 | 33.50 | 31.96 |
| 2025年3月期第3四半期 | — | — |

(注) 2026年3月期第3四半期会計期間より四半期財務諸表を作成しているため、2025年3月期第3四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2026年3月期第3四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

(2) 財政状態

| | 総資産 | | 純資産 | | 自己資本比率 |
|---------------|-------|---|-------|---|--------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | % |
| 2026年3月期第3四半期 | 5,259 | — | 2,623 | — | 44.4 |
| 2025年3月期 | 4,765 | — | 2,241 | — | 42.0 |

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 2,333百万円 2025年3月期 2,002百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|---------------|--------|--------|--------|------|------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 2025年3月期 | — | 0.00 | — | 0.00 | 0.00 |
| 2026年3月期 | — | 0.00 | — | — | — |
| 2026年3月期 (予想) | — | — | — | 0.00 | 0.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年3月期の業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 当期純利益 | | 1株当たり 当期純利益 |
|----|-------|------|-------|------|-------|------|-------|-------|----------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 6,000 | 38.2 | 1,815 | 32.5 | 1,809 | 32.0 | 1,013 | 697.6 | 103.69 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

| | | | | |
|---------------------|------------|-------------|------------|-------------|
| ① 期末発行済株式数（自己株式を含む） | 2026年3月期3Q | 10,160,400株 | 2025年3月期 | 10,160,400株 |
| ② 期末自己株式数 | 2026年3月期3Q | 376,750株 | 2025年3月期 | 425,550株 |
| ③ 期中平均株式数（四半期累計） | 2026年3月期3Q | 9,778,874株 | 2025年3月期3Q | 9,752,035株 |

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 5「1. 経営成績等の概況（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

| | |
|--------------------------------|----|
| 1. 経営成績等の概況 | 2 |
| (1) 当四半期の経営成績の概況 | 2 |
| (2) 当四半期の財政状態の概況 | 5 |
| (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 5 |
| 2. 四半期財務諸表及び主な注記 | 6 |
| (1) 四半期貸借対照表 | 6 |
| (2) 四半期損益計算書 | 7 |
| (3) 四半期財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| (四半期損益計算書に関する注記) | 8 |
| (四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記) | 8 |
| (セグメント情報等の注記) | 8 |
| (収益認識関係) | 9 |
| (企業結合等関係) | 11 |
| (1株当たり情報) | 11 |
| (重要な後発事象) | 12 |

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善や旺盛なインバウンド需要、各種政策の効果などが緩やかな回復基調を下支えすると期待される一方、海外の通商政策の動向や物価上昇の継続が個人消費に及ぼす影響等による景気の下振れ懸念もあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社が主に事業を行う介護業界においては、異業種からの新規参入による競争の激化や人材採用難の状況が継続していることにより、全体として厳しい状況が続いております。この結果、介護事業所の再編が加速しており、M&Aによる事業承継への需要が高まっている状況にあります。また、我が国の高齢化率（総人口に占める65歳以上人口の割合）は年々上昇し、介護サービスの需要が拡大していることを背景として、介護高齢者マーケットへの参入意欲は引き続き旺盛です。

このような環境のもと、当社は展示会を開催することによって、単体事業としても収益を上げながら、来場者である介護事業者と出展社である各種サプライヤー（*1）、双方の決裁権限者の情報並びに業界特有の課題・ニーズに直接アクセスできる利点を活かし、M&A仲介を含む様々なサービスを提供していく独自のビジネスモデルを展開しております。

当第3四半期累計期間において、展示会事業のうち介護分野におきましては、「CareTEX（*2）」を、東京都（夏、冬の年2回開催）・大阪府・福岡県・愛知県・宮城県・北海道・広島県、及びオンラインでの開催に加え、石川県にて北陸地方初となる「CareTEX北陸」を新規開催し、来場者及び出展社への販促活動を行ってまいりました。

展示会事業のうちIT分野におきましては、「DXPO（読み：ディーエクスポ）」を、東京都（夏、秋の年2回開催）・大阪府・福岡県、及びオンラインでの開催に加え、愛知県にて「DXPO名古屋」、神奈川県にて「DXPO横浜」を新規開催するため、来場者及び出展社への販促活動を行ってまいりました。また、2026年6月から7月にかけて北海道初となる「DXPO札幌」の新規開催を決定し、来場者及び出展社への販促活動を進めております。

さらに、展示会事業の第3の分野として、成長著しいグロース企業や優良ベンチャー企業の人材採用に特化した大規模採用イベント（リアル+オンラインによる合同説明会）である新卒向け『Growth就活DXPO』を、2026年8月及び11月に東京都で新規開催することを決定いたしました。

M&A仲介事業におきましては、介護・医療・障害福祉・保育・建設・IT・調剤分野における売主・買主の開拓及び案件成約に注力するとともに、新教育制度・新KPI管理手法の定着に取り組み、実務能力が高くかつ即戦力となる強固な人材の育成に取り組んでまいりました。

人材採用支援事業におきましては、苦戦している採用イベント事業の経営管理体制の強化に取り組むとともに、新たな採用イベント事業の開発・参入を含む抜本改革を進めております。また、人材紹介事業におきましては、学生の就職活動の早期化に伴う内定辞退率の上昇を受け、将来の内定辞退による返金に備えた「返金負債」を追加計上したことにより、計画に対して厳しい状況が続いております。

また、当社は、当社の連結子会社であった株式会社リアライブが培ってきた人材採用支援事業の運営ノウハウ・顧客資産を含む経営資源をより一層活用するとともに、当社が培ってきた「成長ノウハウ」（事業拡大の仕組化・量産化・管理体制）の浸透を更に加速させるため、同社を2025年10月1日付で吸収合併いたしました。

以上の結果、当第3四半期会計期間（3ヵ月間）の経営成績は、売上高は1,583,752千円、営業利益は470,657千円、調整後営業利益（*3）は502,122千円、経常利益は469,113千円、合併差損による特別損失236,890千円を計上したことから、四半期純利益は142,692千円となりました。

また、当第3四半期累計期間の経営成績は、売上高は3,556,678千円、営業利益は750,726千円、調整後営業利益は816,788千円、経常利益は751,202千円、四半期純利益は327,544千円となりました。

なお、当社は当第3四半期会計期間より非連結決算会社へと移行したため、当第3四半期会計期間より四半期財務諸表を作成していることから、前第3四半期会計期間並びに前第3四半期累計期間との比較分析は行っておりませんが、参考情報として前第3四半期連結会計期間の経営成績を記載しております。

第3四半期会計期間（3ヵ月間）の経営成績

(単位：千円)

| | 当第3四半期 会計期間 |
|---------|----------------|
| 売上高 | 1,583,752 |
| 営業利益 | 470,657 |
| 調整後営業利益 | 502,122 |
| 経常利益 | 469,113 |
| 四半期純利益 | 142,692 |

(参考)

(単位：千円)

| | 前第3四半期 連結会計期間 |
|----------------------|------------------|
| 売上高 | 1,379,267 |
| 営業利益 | 240,556 |
| 調整後営業利益 | 288,170 |
| 経常利益 | 238,922 |
| 親会社株主に帰属する 四半期純利益 | 147,637 |

なお、当社が運営しているサービスのうち、展示会事業につきましては、売上高及び営業利益の計上が、展示会の開催月に偏重いたします。大規模な展示会の開催が、第4四半期に集中していることから、売上高及び営業利益が第4四半期会計期間に急増する傾向があります。

当第3四半期累計期間における各セグメントの概況は、以下のとおりです。

(イ) 展示会事業

展示会事業のうち介護分野におきましては、「CareTEX」の開催・運営を行っております。当第3四半期累計期間においては、2025年5月に仙台展、6月に福岡展、8月に東京展[夏]、9月に札幌展、10月に大阪展、11月に石川県で北陸地方初となる北陸展、12月に名古屋展を開催いたしました。

展示会事業のうちIT分野におきましては、企業の管理部門向けの業務改革・生産性向上を支援するソリューション・サービスを一堂に集めた「バックオフィスDXPO」、顧客と接点を持つ営業・マーケティング部門や小売店等に向け、売上増を支援する各種ソリューション・サービスを一堂に集めた「営業・マーケティングDXPO」及び「店舗・EC DXPO」、システム開発・セキュリティ対策・IT人材育成など企業のIT活動を幅広く支援する各種ソリューション・サービスを一堂に集めた「IT・情シス DXPO」の開催・運営を行っております。当第3四半期累計期間におきましては、6月に中部地方初となる名古屋展、8月に東京展[夏]、10月に福岡展、11月に東京展[秋]を開催いたしました。

加えて、展示会関連サービスとして、ブース施工・運営支援のサービスを提供しております。

[展示会開催スケジュール] ※展示会名が、赤字=介護・健康施術分野、青字=IT分野

| 四半期 | 開催月 | 展示会名 | |
|-------|-----|-----------------|---------------|
| 第1四半期 | 5月 | CareTEX仙台 | |
| | 6月 | CareTEX福岡 | DXPO名古屋 ※新規開催 |
| 第2四半期 | 8月 | CareTEX東京[夏] | DXPO東京[夏] |
| | 9月 | CareTEX札幌 | |
| 第3四半期 | 10月 | 大阪ケアウィーク | DXPO福岡 |
| | 11月 | CareTEX北陸 ※新規開催 | DXPO東京[秋] |
| | 12月 | CareTEX名古屋 | |
| 第4四半期 | 1月 | CareTEX広島 ※新規開催 | DXPO横浜 ※新規開催 |
| | 2月 | 東京ケアウィーク | DXPO大阪 |

以上の結果、介護分野・IT分野ともに展示会の規模が拡大し出展小間数が増加したため、当第3四半期会計期間（3ヵ月間）における展示会事業の売上高は818,109千円、セグメント利益は321,043千円となりました。

また、当第3四半期累計期間においては、展示会事業の売上高は2,100,604千円、セグメント利益は749,573千

円となりました。

第3四半期会計期間（3ヵ月間）の経営成績（展示会事業）

| (単位：千円) | | (参考) | (単位：千円) | |
|---------|----------------|------|---------|------------------|
| | 当第3四半期 会計期間 | | | 前第3四半期 連結会計期間 |
| 売上高 | 818,109 | | 売上高 | 739,457 |
| セグメント利益 | 321,043 | | セグメント利益 | 293,159 |

(ロ) M&A仲介事業

M&A仲介事業におきましては、介護・医療・障害福祉・保育・建設・IT・調剤事業者等に向け、M&A仲介サービスの提供を行っております。当該事業におきましては、ウェブサイトのコンテンツ充実、セミナーの開催、ダイレクトメール及び地域金融機関等との業務提携によって案件獲得を強化するとともに、案件の成約に注力いたしました。

当第3四半期累計期間においては、売主・買主の開拓及び案件成約に注力するとともに、新教育制度・新KPI管理手法による、実務能力が高くかつ即戦力となる強固な人材の育成に取り組んでまいりました。これらの新教育制度を終えたコンサルタントの実務能力向上により、案件成約は好調に推移いたしました。

以上の結果、当第3四半期会計期間（3ヵ月間）におけるM&A仲介事業の売上高は652,860千円、セグメント利益は297,708千円となりました。

また、当第3四半期累計期間においては、M&A仲介事業の売上高は1,342,954千円、セグメント利益は397,718千円、成約組数は125組となりました。

第3四半期会計期間（3ヵ月間）の経営成績（M&A仲介事業）

| (単位：千円) | | (参考) | (単位：千円) | |
|---------|----------------|------|---------|------------------|
| | 当第3四半期 会計期間 | | | 前第3四半期 連結会計期間 |
| 売上高 | 652,860 | | 売上高 | 430,450 |
| セグメント利益 | 297,708 | | セグメント利益 | 188,598 |

(ハ) 人材採用支援事業

人材採用支援事業においては、新卒向け採用イベント「ジョブトラ」の開催・運営及び求人企業への人材紹介を行っております。

当第3四半期累計期間においては、苦戦している採用イベント事業の経営管理体制の強化に取り組むとともに、新たな採用イベント事業の開発・参入を含む抜本改革を進めております。また、人材紹介事業におきましては、学生の就職活動の早期化に伴う内定辞退率の上昇を受け、将来の内定辞退による返金に備えた「返金負債」を追加計上したことにより、計画に対して厳しい状況が続いております。

以上の結果、当第3四半期会計期間（3ヵ月間）及び当第3四半期累計期間における人材採用支援事業の売上高は112,615千円、セグメント利益は17,819千円となりました。

第3四半期会計期間（3ヵ月間）の経営成績（人材採用支援事業）

| (単位：千円) | | (参考) | (単位：千円) | |
|---------|----------------|------|---------|------------------|
| | 当第3四半期 会計期間 | | | 前第3四半期 連結会計期間 |
| 売上高 | 112,615 | | 売上高 | 209,191 |
| セグメント利益 | 17,819 | | セグメント利益 | 15,588 |

(*1) 介護用品メーカー、機械浴槽や建材等の設備備品メーカー及び介護ソフトや配食等の施設向けサービス事業者等

(*2) 「CarreTEX」のうち東京展（冬開催）及び大阪展については、複数の専門展により構成される「ケアウィーク」の総称にて開催。

(※)第15回から第18回の新株予約権の行使条件となる利益であり、連結損益計算書（連結損益計算書を作成していない場合、損益計算書とする。）に記載の営業利益から、のれん償却費、顧客関連資産償却費及び新株予約権に係る株式報酬費用の影響を排除した金額です。

調整後営業利益＝営業利益+のれん償却費+顧客関連資産償却費+株式報酬費用

(2) 当四半期の財政状態の概況

当第3四半期会計期間末における資産及び負債の増減には、2025年10月1日の当社の連結子会社の吸収合併による資産及び負債の増加分が含まれております。

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は5,259,257千円となり、前事業年度末に比べて493,733千円の増加となりました。流動資産は4,284,250千円となり、前事業年度末に比べて563,453千円の増加となりました。主な要因は、前受金の受領及び売掛金の回収が進んだことによって現金及び預金が440,972千円増加したこと等によるものです。固定資産は975,007千円となり、前事業年度末に比べて69,720千円の減少となりました。主な要因は、合併に伴いのれんが215,750千円増加した一方、関係会社株式が425,239千円減少したこと等によるものです。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債合計は2,635,310千円となり、前事業年度末に比べて111,043千円の増加となりました。流動負債は2,170,136千円となり、前事業年度末に比べて261,749千円の増加となりました。主な要因は、1月以降開催の展示会及び採用イベントの出展料の受領により前受金が392,474千円増加したこと等によるものです。固定負債は465,174千円となり、前事業年度末に比べて150,706千円の減少となりました。主な要因は、借入金の返済に伴い長期借入金が150,088千円減少したこと等によるものです。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は2,623,946千円となり、前事業年度末に比べて382,690千円の増加となりました。主な要因は、四半期純利益の計上に伴い利益剰余金が327,544千円増加したこと及びストックオプションの権利行使に伴う自己株式の処分によって自己株式（控除項目）が67,344千円減少したこと等によるものです。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の個別業績予想につきましては、2025年11月12日に公表いたしました「非連結決算への移行及び特別損失の計上並びに2026年3月期個別業績予想の修正に関するお知らせ」から変更はありません。

なお、展示会事業につきましては、売上高及び営業利益の計上が、展示会の開催月に偏重いたします。大規模な展示会の開催が、第4四半期に集中していることから、売上高及び営業利益が第4四半期会計期間に急増する傾向があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

| | 前事業年度 (2025年3月31日) | 当第3四半期会計期間 (2025年12月31日) |
|---------------|-----------------------|-----------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 3,589,681 | 4,030,653 |
| 預け金 | 460 | 4,711 |
| 売掛金 | 62,061 | 88,946 |
| 前渡金 | 37,067 | 41,759 |
| 前払費用 | 23,668 | 39,506 |
| その他 | 8,459 | 79,573 |
| 貸倒引当金 | △602 | △901 |
| 流動資産合計 | 3,720,797 | 4,284,250 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | 169,836 | 178,100 |
| 無形固定資産 | | |
| のれん | — | 215,750 |
| その他 | 153,531 | 330,106 |
| 無形固定資産合計 | 153,531 | 545,857 |
| 投資その他の資産 | | |
| 関係会社株式 | 425,239 | — |
| 繰延税金資産 | 120,692 | 78,654 |
| その他 | 175,427 | 172,394 |
| 投資その他の資産合計 | 721,359 | 251,049 |
| 固定資産合計 | 1,044,727 | 975,007 |
| 資産合計 | 4,765,524 | 5,259,257 |
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 1年内返済予定の長期借入金 | 292,244 | 361,974 |
| 未払法人税等 | 330,565 | 132 |
| 未払金 | 217,421 | 187,578 |
| 未払費用 | 30,801 | 67,840 |
| 前受金 | 831,556 | 1,224,030 |
| 賞与引当金 | 193,929 | 226,407 |
| その他 | 11,867 | 102,172 |
| 流動負債合計 | 1,908,386 | 2,170,136 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | 611,826 | 461,738 |
| その他 | 4,054 | 3,436 |
| 固定負債合計 | 615,880 | 465,174 |
| 負債合計 | 2,524,267 | 2,635,310 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 50,000 | 50,000 |
| 資本剰余金 | 296,673 | 232,142 |
| 利益剰余金 | 2,243,656 | 2,571,201 |
| 自己株式 | △587,332 | △519,988 |
| 株主資本合計 | 2,002,997 | 2,333,355 |
| 新株予約権 | 238,259 | 290,591 |
| 純資産合計 | 2,241,256 | 2,623,946 |
| 負債純資産合計 | 4,765,524 | 5,259,257 |

(2) 四半期損益計算書

(単位：千円)

| | 当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日) |
|--------------|--|
| 売上高 | 3,556,678 |
| 売上原価 | 537,133 |
| 売上総利益 | 3,019,545 |
| 販売費及び一般管理費 | 2,268,818 |
| 営業利益 | 750,726 |
| 営業外収益 | |
| 受取利息 | 3,239 |
| 助成金収入 | 2,000 |
| その他 | 391 |
| 営業外収益合計 | 5,630 |
| 営業外費用 | |
| 支払利息 | 5,154 |
| 営業外費用合計 | 5,154 |
| 経常利益 | 751,202 |
| 特別損失 | |
| 抱合せ株式消滅差損 | 236,890 |
| 特別損失合計 | 236,890 |
| 税引前四半期純利益 | 514,311 |
| 法人税、住民税及び事業税 | 176,023 |
| 法人税等調整額 | 10,743 |
| 法人税等合計 | 186,767 |
| 四半期純利益 | 327,544 |

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

(自己株式の処分)

ストックオプションの権利行使による自己株式の処分を行ったことにより、自己株式が67,344千円減少しております。この結果、当第3四半期会計期間末において自己株式が519,988千円となっております。

(四半期損益計算書に関する注記)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりです。

| | 当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日) |
|----------|--|
| 給与手当 | 717,727千円 |
| 賞与引当金繰入額 | 259,173 |
| 株式報酬費用 | 52,622 |

(四半期キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、当第3四半期累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却費は、次のとおりです。

| | 当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日) |
|--------|--|
| 減価償却費 | 67,619千円 |
| のれん償却費 | 7,439 |

(セグメント情報等の注記)

当第3四半期累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) 1 | 合計 | 調整額 (注) 2 | 四半期 損益計算書 計上額 (注) 3 |
|-------------------|-----------|-------------|--------------|-----------|--------------|-----------|--------------|------------------------------|
| | 展示会事業 | M&A仲介 事業 | 人材採用支援 事業 | 計 | | | | |
| 売上高 | | | | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 2,100,604 | 1,342,954 | 112,615 | 3,556,174 | 504 | 3,556,678 | — | 3,556,678 |
| セグメント間の内部売上高又は振替高 | — | — | — | — | — | — | — | — |
| 計 | 2,100,604 | 1,342,954 | 112,615 | 3,556,174 | 504 | 3,556,678 | — | 3,556,678 |
| セグメント利益 | 749,573 | 397,718 | 17,819 | 1,165,112 | 504 | 1,165,616 | △414,890 | 750,726 |

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントです。

2. セグメント利益の調整額△414,890千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であり、その主なものは、管理部門に係る費用等です。

3. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

当第3四半期累計期間において、株式会社リアライブを吸収合併したことに伴い、全社資産としてののれんが223,189千円増加しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

当社は、展示会事業、M&A仲介事業、人材採用支援事業を基本にして組織が構成されており、当社の取締役会が、経営資源の配分の決定及び業績の評価をするために、定期的に検討を行う対象としていることから、これらの事業で計上する収益を売上高として表示しています。また、売上高はセグメント情報等における報告セグメントと収益を分解する程度が概ね同一です。これらの分解した収益とセグメント情報に記載した「外部顧客への売上高」との関係は以下のとおりです。

(表示方法の変更)

従来、展示会事業の収益認識については介護分野の展示会を「(リアル展)収入」「(オンライン展)収入」に区分し、IT分野の展示会を(リアル展)と(オンライン展)のハイブリッド型である「(DXPO)収入」に区分しておりましたが、第1四半期会計期間より介護分野においてもIT分野と同様のシステムによる展示会運営を開始し、介護分野・IT分野ともに(リアル展)に(オンライン展)を併設したハイブリッド型でサービス提供を行っていることから、展示会事業における分解情報を「展示会事業収入」に統合して表示することといたしました。

当第3四半期累計期間(自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | | | その他 (注) | 合計 |
|-------------------|-----------|-------------|--------------|-----------|------------|-----------|
| | 展示会事業 | M&A仲介 事業 | 人材採用 支援事業 | 計 | | |
| 展示会事業収入 | 2,100,604 | — | — | 2,100,604 | — | 2,100,604 |
| M&A仲介収入 | — | 1,342,954 | — | 1,342,954 | — | 1,342,954 |
| 採用イベント収入 | — | — | 75,840 | 75,840 | — | 75,840 |
| 人材紹介収入 | — | — | 36,775 | 36,775 | — | 36,775 |
| その他 | — | — | — | — | 504 | 504 |
| 顧客との契約から生じる 収益 | 2,100,604 | 1,342,954 | 112,615 | 3,556,174 | 504 | 3,556,678 |
| その他の収益 | — | — | — | — | — | — |
| 外部顧客への売上高 | 2,100,604 | 1,342,954 | 112,615 | 3,556,174 | 504 | 3,556,678 |

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであります。

(イ) 展示会事業

展示会事業においては、主にリアル展及びオンライン展の開催を行っております。

リアル展においては、当社は出展社に対して出展小間（出展社に貸し出すために仕切られたスペースの単位）を提供する義務を負っており、当該履行義務は展示会開催期間中、出展小間の提供を行うことをもって充足されます。

オンライン展においては、当社は出展社に対してオンライン上での動画掲載ブースを提供する義務、資料を来場者へ提供する義務または出展社に対して商談のセッティングを代行する義務を負っております。当該履行義務はオンライン上の展示会出展ブースの提供期間開始日から終了日までの間、オンライン上の出展ブースの提供や、来場者への資料提供または出展社に対する来場者とのアポイント設定の完了をもって充足されます。

また、取引の対価は、通常、履行義務の充足前の一定時点に前もって受領または履行義務の充足時点と至近する日に受領しており、重大な金融要素は含んでいません。

(ロ) M&A仲介事業

主にM&Aによる事業承継ニーズを有する事業者に対し、購入・売却条件が合致する案件を紹介し、顧客間での譲渡契約を締結させることによる成功報酬型での仲介手数料収入であり、当社は顧客に対して、購入・売却条件が合致する案件を紹介する義務を負っております。当該履行義務は譲渡・譲受企業が最終譲渡契約を締結した時点をもって充足され、当該M&Aが不成立となる要因が解消されたと判断した時に収益を認識しております。また、取引の対価は、通常、履行義務の充足時点と至近する日に受領しており、重大な金融要素は含んでいません。

(ハ) 人材採用支援事業

主に「採用イベント」の開催及び求人企業への「人材紹介」を行っており、主な収益を下記の履行義務の充足時に認識しております。また、取引の対価は、通常、履行義務の充足時点と至近する日に受領しており、重大な金融要素は含んでいません。

なお、顧客から受け取ったまたは受け取る対価のうち、将来返金されると見込まれる収益の額として、売上高に返金実績率を乗じた額を、返金負債に計上しております。

採用イベント収入

主に採用イベントの参加企業から得る収入であり、当社は参加企業に対して採用イベントを提供する義務を負っております。当該履行義務は採用イベントの開催をもって充足され、採用イベントの開催完了をもって収益を認識しております。

人材紹介収入

主に求人企業へ応募者を紹介することで得る紹介収入であり、当社は求人企業に対して条件が合致する応募者を紹介する義務を負っております。当該履行義務は、応募者が求人企業に対して入社を合意した時点をもって充足され、応募者が中途入社者である場合は入社日に、応募者が新卒入社者である場合は内定受諾日に収益を認識しております。

(企業結合等関係)

共通支配下の取引等

(連結子会社の吸収合併)

当社は、2025年3月27日開催の取締役会において、当社の連結子会社である株式会社リアライブを吸収合併することを決議し、2025年10月1日付けで合併いたしました。

1. 取引の概要

(1) 結合当事企業の名称及び事業の内容

結合当事企業の名称 株式会社リアライブ

事業の内容 人材採用支援事業

(2) 企業結合日

2025年10月1日

(3) 企業結合の法的形式

当社を存続会社とし、株式会社リアライブを消滅会社とする吸収合併

(4) 結合後企業の名称

ブティックス株式会社

(5) その他取引の概要に関する事項

リアライブが培ってきた人材採用支援事業の運営ノウハウ・顧客資産を含む経営資源をより一層活用するとともに、当社が培ってきた「成長ノウハウ」(事業拡大の仕組化・量産化・管理体制)の浸透を更に加速させることを目的としています。

2. 実施した会計処理の概要

「企業結合に関する会計基準」(企業会計基準第21号 2019年1月16日)及び「企業結合会計基準及び事業分離等会計基準に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第10号 2024年9月13日)に基づき、共通支配下の取引として処理しております。なお、これにより、当第3四半期会計期間において抱合せ株式消滅差損236,890千円を特別損失に計上しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

| | 当第3四半期累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日) |
|---|--|
| (1) 1株当たり四半期純利益 | 33円50銭 |
| (算定上の基礎) | |
| 四半期純利益(千円) | 327,544 |
| 普通株主に帰属しない金額(千円) | — |
| 普通株式に係る四半期純利益(千円) | 327,544 |
| 普通株式の期中平均株式数(株) | 9,778,874 |
| (2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 | 31円96銭 |
| (算定上の基礎) | |
| 四半期純利益調整額(千円) | — |
| 普通株式増加数(株) | 468,428 |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要 | — |

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は、2026年2月12日開催の取締役会において、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項を決議いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

株主還元の一環として、また、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能にするため、自己株式の取得を行うものです。

2. 取得に係る事項の内容

- | | |
|----------------|----------------------------------|
| (1) 取得対象株式の種類 | 当社普通株式 |
| (2) 取得し得る株式の総数 | 150,000株 (上限) |
| | (発行済株式総数 (自己株式を除く) に対する割合1.5%) |
| (3) 株式の取得価額の総額 | 300,000,000円 (上限) |
| (4) 取得期間 | 2026年2月13日から2026年12月31日まで |
| (5) 取得の方法 | 東京証券取引所における市場買付 |
| | ①取引一任契約に基づく立会取引市場における市場買付 |
| | ②自己株式立会外買付取引 (ToSTNeT-3) による市場買付 |